



### インターンシップ

#### 二十周年記念行事のご案内

中央大学経済学部における正課授業としての「インターンシップ」開講二十周年を記念して、「インターンシップ・サミット二〇一四ニッポンの今、世界の今を知る。激動の時代、学生は何を志すべきか」を開催します。

学生による体験報告、講演とパネルディスカッションなどを通じ、本学、共催の南甲倶楽部(本学出身経済人の親睦団体)並びに企業、自治体、学生および関係者等がパートナーとして相互に成長し、成果を上げる機会を共に創り出す場としたいと考えております。

ご多忙中とは存じますが是非ともご参加いただければ幸いです。ごさいませ。

インターンシップ二十周年記念行事  
実行委員会委員長 谷口 洋志  
(経済学部長)

### インターンシップ二十周年記念行事

「インターンシップ・サミット二〇一四ニッポンの今、世界の今を知る。激動の時代、学生は何を志すべきか」

日時 二〇一四年十二月六日(土)  
十二:三〇~十七:五〇

場所 中央大学多摩キャンパス  
八号館 八三〇三教室

#### 次第

- 一一:〇〇 ● 受付開始
- 一二:三〇 ● 開会式

開会あいさつ

#### ● パネルディスカッション

##### 【進行役】

◎松村みか 小説家・国際開発コンサルタント(一九八五年経済学部卒)

「城山三郎経済小説大賞第一回受賞」

【パネリスト】

◎本間毅 楽天(株)執行役員

(二〇〇二年商学部卒)

「シリコンバレー在住」

◎真坂淳 BNPパリバ銀行投資銀

行本部部長(一九九五年法学部卒)

JSBN(日本学生社会人ネットワーク)代表

◎ジョン・キム John Kim 作家

(一九九七年経済学部卒)三重野康賞受賞・フィレンツェ在住

◎松田江利子 神奈川県茅ヶ崎市常勤保健師(一九九七年経済学部卒)

「佐藤栄作賞最優秀賞受賞」

◎佐藤千紘 福島県庁(二〇一三年法学部卒)福島在住

一四:〇〇 ● 記念講演

一 門田隆将氏講演

二 鼎談・フロアアとの質疑応答

【講演者・鼎談者】

◎門田隆将 ノンフィクション作家(一九八一年法学部卒)「幅広い分野で毅然とした日本人像を描く」

『この命、義に捧ぐー台湾を救った陸軍中将根本博の奇跡』(角川書店)で「第19回山本七平賞」(PHP研究所主催)を受賞。『甲子園への遺言ー伝説の打撃コーチ高島導宏の生涯』(講談社)では、NHK土曜ドラマ「フルスイング」(主演・高橋克実)としてドラマ化され、ベストセラーとなる。

『死の淵を見た男ー吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日』(PHP研究所)、『狼の牙を折れー史上最大の

爆破テロに挑んだ警視庁公安部ー(小学館)『記者たちは海に向かったー津波と放射能と福島民友新聞』(角川書店)『慟哭の海峡』(角川書店)など、幅広いジャンルで話題作を次々と刊行している。

受賞歴として、二〇〇五年ミズノスポーツライター賞優秀賞、二〇一〇年文化庁芸術祭ドラマ部門大賞(原作)、二〇一〇年ATP賞テレビグラフィック・ドキュメンタリー部門優秀賞(原作)、二〇一〇年山本七平賞、二〇一二年文化庁芸術祭ドラマ部門優秀賞(原作)など。

なお、二〇一一年月卒業式において門田隆将さんは「康子十九歳 戦渦の日記」(文藝春秋)により学員代表挨拶が決定していましたが、東日本大震災のため幻の卒業式となってしまいました。

#### 【進行役・鼎談者】

◎山本哲也 NHKアナウンス室エグゼクティブアナウンサー(一九八〇年法学部卒)

NHK「ゆうどき」キャスター。今秋十月二六日開催の本学ホームカミングデイにて総合同会を務める。

#### 【鼎談者】

◎松村みか 小説家・国際開発コンサルタント(一九八五年経済学部

卒二城山三郎経済小説大賞第一回  
受賞一

一五・四〇

● インターシップ報告会開会式

学生によるインターシップ

体験報告

※分野により五会場に分かれます。

一七・五〇

閉会式

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

### 海外インターシップ

#### 体験報告

会報第五三号(三月十日発行)  
でお知らせしておりました海外イン  
ターシップは、「海外ビジネスコー  
ス(現地企業)」、「海外ビジネスコー  
ス(日系企業)」、「国際観光コース」  
の三コースからなり、各コース担当  
講師による講義と海外研修とから成  
る通年四単位科目の新設科目です。  
今回は、「海外ビジネスコース(現  
地企業)」の受講者の体験報告を以  
下に掲載いたしました。

### 「海外インターシップ

を終えて」

経済学部 国際経済学科三年

三輪 祐佳利

今年より従来のインターシッ  
プの授業に加え、新しく海外コース  
が三コース開講されました。第一期  
生として参加できた事を大変嬉しく  
思っております。

さて、私は三コースあるうちの  
海外ビジネスコース(現地企業)に  
参加致しました。内容は、イギリス  
にある、研修などを提供する現地の  
企業に二週間ほど訪問するというも  
のでした。メンバーは、私を含めた  
学生三人。それに、事務室の方が一  
名付き添ってくれるという形にし  
た。通訳はもちろんのこと、研修先  
との間を取り持つてくれる人はいな  
いので、学生自らが主体的に動く必  
要がありました。

そして、インターシップのプ  
ログラムが始まる八月に先立ち、前  
期のうちから毎週土曜に一コマ分の  
講義が行われました。講義内容は、  
英語のライティングやスピーキング  
をベースに、論理的な思考を行うた  
めの思考法やプレゼンテーションス

キルの上達、より質の高い会議にす  
るための進行方法など、ビジネスに  
おいて大変重要とされるものばかり  
でした。

そして週に一度の講義を経て、  
夏季休業中の八月二十四日にイギリ  
スへと出発しました。研修先は、ロ  
ンドンより一時間ほど離れた、ヘン  
リー・オン・テムズという町にあり、  
自然が多く街並みが大変綺麗などこ  
ろでした。そこで、約二週間の研修  
が始まります。研修先の会社は「HUI  
HOLST GROUP」という、サイコメ  
トリック・テストをメインに、研修  
などを提供しています。実際にオ  
フィスで仕事をしている社員は十人  
程と少なく、それに加え社員の方全  
員がとてもフレンドリーでとても歓  
迎をしてくれたので、すぐに会社の  
雰囲気打ち解けたのを覚えていま  
す。

研修の内容は、会社の概要や実際  
に提供している商品のレクチャー、  
社員のシャドウイング、競合他社の  
リサーチ、他社への訪問など様々で  
した。そして、どれも本当に興味深  
いものばかりでした。その中でも特  
に印象深かった内容が、マーケティ  
ングの講義の時に出された課題で、  
「今から一時間あげるの、街を歩

いて写真を撮り、その写真から新し  
い商品・サービスを提案しなさい」と  
いうものでした。意図としては、  
私たち学生世代の顧客が少なく、私  
たちの目に留まるものに、顧客拡大  
のための鍵があるという事でした。  
その提案を含めた、インターシッ  
プ最終日に行ったプレゼンテーショ  
ンは好評を得られました。

今回のインターシップを通し  
て感じたこと、得られた気付きは、  
些細な事から大きな事まで、挙げ始  
めたらきりがありません。その中でも、  
ビジネスに焦点を当てた学びや気付  
きは、今後の私にとってかけがえの  
ない財産であるといえます。それは、  
いかにビジネスの場において自分の  
英語が通用しないかという事であつ  
たり、日本とイギリスでの職場の雰  
囲気の違いであつたり、イギリスの  
職場で会社に着くと、まず一番に「紅  
茶を一杯どうぞ?」ときかれるのも私  
にとって大切な気付きでした。今回  
得られたこれらの貴重な財産を、今  
後の自分の将来に、きちんと反映で  
きるよう努めてまいります。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

「グローバル・リーダーズ・プログラム」の紹介

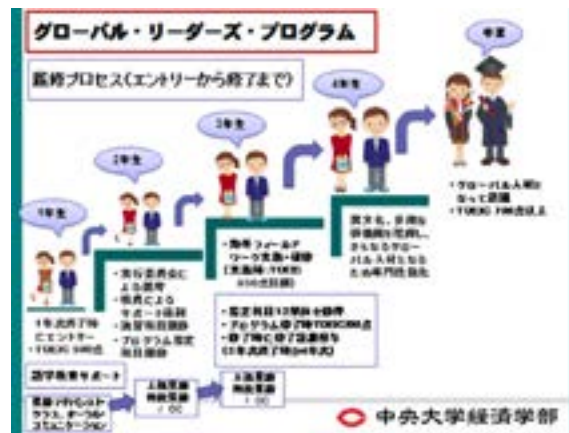
経済学部教授 鳥居 伸好

経済学部は、海外インターンシップや海外フィールド実習に単位を付与する

「グローバル・フィールド・スタディーズ」などのグローバル人材育成の取組を積極的に行っていますが、ここでは、グローバル人材育成の取組の一つである「グローバル・リーダーズ・プログラム」の紹介がたがた、十月二十九日(水)に実施されました第二回リーダー研修の報告をさせていただきます。

「グローバル・リーダーズ・プログラム」は、二〇一四年度からはじめられました取組で、その内容は、①海外フィールド実習(学生の海外での実践力向上を図る)、②リーダー研修(今年度は、四回ほどの研修、二〇一五年度からは、正規の授業でのリレー形式の授業)、③演習科目での様々な能力育成(経済学部のプログラム参加教員の演習、EOP演習、課題演習等の履修)、④プログラム関連講義科目の履修(十二単位分)、⑤TOEIC七〇〇点以上を獲得するための英語力養成、によって構成されています。このプログラムには修了要件がありまして、①海外フィールド実習、②研修・演習を含む十二単位履修、③TOEIC七〇〇点以上獲得、という三つの要件を満たしたプ

ログラム修了者に経済学部から修了証書が授与されることになっています。次の図は、「グローバル・リーダーズ・プログラム」の履修プロセスを示したものです。



二〇一四年度は、四月・七月の二度参加学生の選考(面接審査)を行いました。合格者は、三二名(経済学部二二名、法学部五名、商学部三名、文学部二名)、二〇一四年十月二十九日現在のプログラム参加者は三十名になっています。八月五日開催の第一回リーダー研修(自己紹介、グループディスカッション、プレゼンテーションなど)を踏まえて、十月二十九日に、第二回リーダー研修が実施されました。その研修は、①海外インター

ンシップ三コース(「国際ビジネス日系企業派遣コース」「国際ビジネス現地企業派遣コース」「国際観光コース」)の学生による英語での海外研修報告、②経済学部事務職員天野雅之氏によるウズベキスタン開催されたレスリング世界選手権報告(レスリング・グレコローマンスタイル八五kg級世界選手権第8位入賞)、③キャンター・ゲイリー教授による「グローバル・リーダーズを目指す学生に望むこと」というタイトルでの英語による講演、という内容でした。

海外インターンシップの「国際ビジネス日系企業派遣コース」は、アメリカのサンフランシスコ・ベイエリアを中心とする日系企業(Tokyo TV、週刊スポーツなど)での研修内容を報告してくれました。同じく「国際ビジネスコース」の「現地派遣コース」は、イギリスの企業(ホテルストグループ)での研修を紹介してくれました。また、「国際観光コース」は、マレーシアペナン政府観光局での研修およびホームステイや現地の大学寮での宿泊等の紹介とともに、現地で行った英語でのプレゼンテーションについても報告してくれました。三コースの代表者(三年生)によるパワーポイントを使用した、からの英語でのプレゼンテーションは、研修学生(二年生)にとって、将来の自分を重ねながら聞くことのできる有益な報告であったと思います。ウズベキスタンで開催されたレスリング世界選手権八位入賞の天野雅之氏は、世界選手権に臨んだ心境と日頃の練習等を紹介しつつ、「今、ここで自分は何のために何をすべきか」という話を研修学生にしてくれました。キャンター・ゲイリー教授は、「デーブル・カーネギー(Dale Carnegie)の著書『How to Win Friends and Influence People』を紹介しながら、人を動かす三原則、人に好かれる三原則、人を説得する十二原則、人を変える九原則などに言及して、人間関係の構築やコミュニケーションンスキル、リーダーシップスキルについて、英語で分かりやすく講義をしてくれました。今年度の「グローバル・リーダーズ・プログラム」研修は、今後二回(二〇一四年十二月、二〇一五年二月)ほど予定されておりまして、外国人留学生との交流会等を行うことになっています。二〇一五年度からは、授業としての研修(十二単位十五回)と海外フィールド実習が始まり、いよいよ本格的なプログラムの始動となります。経済学部のグローバル人材育成の取組として、このプログラムを通して多くの優秀な人材が育って行きま

すことを願っています。

え、あの先生が

シリーズ⑱

経済学部助教 南 映子



スペイン語を担当しております、南映子と申します。二〇一二年四月に着任してから二年半と少し経ちました。本学は初めての赴任校であり、多くの方々にあたためたいご指導をいただきながら、研究・教育・校務の進め方、そしてそのバランスのとり方に試行錯誤を繰り返しています。

私は学生に短期でも長期でも海外に留学することを勧めています。私自身は大学生になるまで日本の外に出たことがなく、海外での思い出もよいものばかりではありません。けれども、むしろネガティブな経験が自分の糧になっているように思います。ちなみに、私の専門はスペイン語圏文学で、特にメキシコの近現代詩の研究に取り組んでいます。初めての海外旅行先も最初の留学先

も、実はフランスでした。

パリにはひたすら圧倒されました。街も道行く人たちも街路樹さえもすべてがすばらしく洒落て見え、夜になって宿に戻ると、洗面所の鏡に映った平板で冴えない顔に幻滅を感じたものでした。

一年間の留学生活を送ったのはアルプスの山々に囲まれた町グルノーブルです。第一印象も後から思い返す印象もよいものですが、留学生活は順調なことばかりではありませんでした。

着いてすぐ、冷蔵庫を買いに行くことになりました。大学寮の共用キッチンにはロッカー式の冷蔵庫があるのですが、すべての正常なミニドアにはすでに南京錠がかかっていたのです。唯一空いていたドアは派手に歪んで霜だらけ。買って来た鍵もかけることができず、一晩ならと入れておいたヨーグルトは、翌朝にはなくなっていました。

同じ時期に留学生活を始めた日本の友人と一緒に巨大スーパーの家電売り場に向かい、手ごろな小型冷蔵庫に目星をつけてカウンターで注文すると、若い女性店員が「\*\*\*を持って来て」。その「\*\*\*」がわからず、何度かき直したところ

「Elles ne comprennent pas. (彼女たち、わかってないわ)」。店員同士が交わしたその一言は、文字に起こせるほど明確に聞きとれました。結局、必要なのは冷蔵庫を駐車場まで運ぶための「カート」だったとわかり、マリンプルーの冷蔵庫を十二平米の小さな部屋に持って帰ることができたのですが、くやしさはしばらくおさまりませんでした。

ほかにも銀行では口座開設のために求められる書類が担当者によって違ったり、まだ午前の営業時間なのに「もうすぐ」昼休みだからと門前払いをくらったり、理不尽に感じることが多々ありました。が、そのうちに、店員や銀行員として働いているときでも、その役割より一人一人の素直な反応の方が前面に出るあり方も面白いと思うようになりました。

そのあと合計二年暮らしたメキシコ留学中にも、たくさんのいい思い出に加えて、路上で物盗りに遭ったり下宿屋の女主人とけんかしたりとネガティブな出来事がありました。それでも、思い通りにいかないときこそ何か新しい視界が開けるチャンスと捉えるようになってからは、どれも貴重な経験です。

十月二十九日に実施された  
第二回グローバルリーダーズ(GRP)  
研修の授業風景



2014年12月1日 第56号

発行 白門経友会常任幹事会  
編集 白門経友会編集委員会  
編集長 鈴木 秀男  
〒192-0393  
東京都八王子市東中野 742-1  
中央大学経済学部内  
URL : www.wg-keiyukai.com  
Fax : 042-673-3425